

令和6年度の取組み状況

(1) 小・中学校・特別支援学校の児童生徒を対象とする取組み

◆ “いじめ・非行をなくそう” 標語の募集及び全県広報

- ・県内の全小中学校及び特別支援学校に対し、いじめの防止・根絶に向けた標語を募集したところ、合計51,340点の応募があり、各地区ごとに審査が行われ、下記の4点が優秀作品に輝きました。

【令和6年度“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動優秀標語】

村山地区：いやなこと しない いわない ゆるさない

(村山市立樋岡小学校 1年 清水 晴仁さん)

最上地区：その気持ち いつかじやなく 今助ける

(最上町立最上中学校 1年 千葉 瑞真さん)

置賜地区：きっとある 優しい心 誰にでも

(高畠町立高畠中学校 3年 内山 千咲登さん)

庄内地区：「それいいね！」 ともだちよいとこ つたえよう

(県立鶴岡養護学校小学部 5年 青木 まこさん)

- ・優秀作品については、青少年の健全育成に携わる関係者が一堂に集う山形県青少年健全育成県民大会（開催日：令和6年10月27日、場所：村山市民会館）の場で作者が表彰され、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動ポスター等各種広報媒体に掲載されました。

(2) 高等学校の生徒を対象とする取組み

◆ 高校生徒会等によるいじめ防止スローガンの作成、いじめ・非行防止ポスター・デザインの募集

- ・県内の各高等学校において、生徒会等が主体となって“いじめをなくそう”スローガンを策定し、学校ごとにスローガンの実現に向けた様々な取組みが行われました。
- ・県内の高校生を対象に、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動のポスター・デザインを募集したところ、計16点の応募があり、審査により優秀作品が選ばれました。

◆ 児童・生徒と地域の大人の対話会の実施

県内4地区において、子どもと地域の大人が互いに向き合い、いじめ防止のために何ができるのかを考える対話会が行われました。各地区の実情に応じて、小・中学生との対話会が行われたところもあり、大人と子どもが真摯に向き合うことでお互いに学んだことも多く、地域と子どものつながりが大事であると再認識できました。

これまでの活動や各地区の取組み状況を共有し、今後の更なる運動推進を目指します。

(3) 県内の各地域における取組み

◆ いじめ・非行防止セミナーの開催（山形県青少年健全育成県民大会の中で開催）

青少年の健全育成に携わる関係者が一同に集う山形県青少年健全育成県民大会の場で、第63回山形県少年の主張大会で「障害を乗り越えて」と題した発表で最優秀を受賞した白鷹町立白

鷹中学校3年の井上愛奈さんの主張発表のほか、特定非営利活動法人クリエイトひがしね理事の三浦通夫氏より、「子どものウェルビーイングを求めて」と題して、遊ぶことで育つ『遊育』と地域において共に育ち合う『共育』を提供していることについて事例発表いただきました。

また、有限会社クロフネカンパニー代表取締役社長の中村文昭氏から、「でっかい子育て人育て」と題してご講演をいただきました。中村氏は、大切にしている言葉「聞いた言葉で心が作られる。子どもの発する言葉が未来をつくる」、「頼まれごとは試されごと」などと、自分の経験や活動に触れながら紹介し、子どもには教えるのではなく、未来に向かってワクワクさせること、子どもが自分自身との約束を守ろうと頑張りたくなる気持ちにさせることが大切と熱く語りました。

会場内は先生のユーモアある話に時折笑顔があふれ、大変有意義な時間となりました。

◆ 地域の大人のためのインターネット利用に関する研修会の開催

令和6年11月18日に県庁講堂で実施し、消費生活センターの五十嵐弥生氏を講師に迎え、「若者のインターネットトラブルの現状と対策」と題し、インターネットを介したトラブル事例、消費者トラブルを防ぐための注意点や対策について、講演いただきました。

(4) 各種媒体による啓発活動



山形県立山形中央高等学校 1年 野村 咲景さんの作品が
ポスター・デザインに選ばれました。

◆ 地域県内民間企業と連携した啓発活動

モンティオ山形と連携し、山形県総合運動公園にて令和6年11月10日の試合会場等で啓発活動を実施しました。